

国際地震工学センター ニュースレター 第76号 2012年1月23日発行

++++++Contents++++++

1. 第17回国際地震工学研修グローバル地震観測コース開講
2. 復興に関する国際シンポジウムの開催 (2月21日)
3. 国際ビデオ会議「復興を通じた安全な住宅づくりを考える」 (2月22日)

++++++  
=====

[1] 第17回国際地震工学研修グローバル地震観測コース開講

グローバル地震観測コースが1月12日から始まりました。今回で17回目となる研修に10ヶ国から10名が参加しています。参加国は(アルファベット順で)エジプト、フィジー、グアテマラ、インド、インドネシア、パキスタン、スリランカ、タイ、トルクメニスタン、ジンバブエです。今年にはCTBTO国際データセンター局長のラッシーナ・ゼルボ氏が開講式に出席しました。また、翌13日には「CTBT体制と国際監視制度概論」と題した講義を行いました。研修は3月8日閉講の予定です。

原 辰彦 (博士)  
国際地震工学センター 上席研究員

-----  
[2] 復興に関する国際シンポジウムの開催

独立行政法人建築研究所では、政策研究大学院大学と共催で「国際シンポジウムー巨大災害からの復興を考えるー」を2月21日(火)に開催します。まず、2011年東日本大震災、2010年ハイチ地震、2008年四川地震、2004年スマトラ沖地震・津波災害等の世界的な地震津波災害に関して各国の専門家から発表を行います。さらに、コミュニティの再生、災害弱者対応、安全な建物づくり・まちづくり、国際的な復興活動の視点からディスカッションを通して、大震災からの復興に活用が期待できる教訓を探ります。(詳細は建研のホームページで紹介しています。)

開催日：平成24年2月21日(火) 13:00~17:15  
会 場：政策研究大学院大学 (GRIPS) 想海楼ホール 東京都港区六本木 7-22-1  
ホームページ:

[http://www.kenken.go.jp/japanese/information/information/event/international\\_symposium-2012/pamphlet-jp.pdf](http://www.kenken.go.jp/japanese/information/information/event/international_symposium-2012/pamphlet-jp.pdf)

黒 澤 肇  
国際地震工学センター 管理室長

---

[3] 国際ビデオ会議「復興を通じた安全な住宅づくりを考える」

大地震では、建築物の倒壊が死傷者発生の主因となることが多いため、建築・住宅に焦点を当て、被害の実態と背景、被害軽減技術とその普及などについて、参加各国からの報告をもとに、国際社会に寄与するための知見の交換、今後の取り組みへの教訓について議論を行います。

主催：(独) 建築研究所、政策研究大学院大学

日時： 2012年2月22日(水) 午後4時-7時50分

会場：世界銀行東京開発ラーニング・センター(メイン)、各国JICA事務所ほか

言語：英語のみ、 参加費：無料

内容：

- (1) 近年の巨大災害と復興の報告(ハイチ、四川、カシミール、インド洋、東日本)
- (2) 近年の地震災害についての報告(2011年トルコ地震、2009年パダン地震など)
- (3) 地震被害軽減の取り組みの事例紹介(ネパール、フィリピン、インドネシアから)
- (4) 国際的な情報共有と被害軽減のためのアプローチ(世銀、JICA、EERI、IAEEほか)

事前申込先： 杉岡 Mail: [sugioka@ued.or.jp](mailto:sugioka@ued.or.jp) FAX: 03-3504-0752

安藤 尚一

国際地震工学センター長

---

\*\*\*\*\*  
このニュースレターは、これまでの研修生(英語メールのみ)と関係者の方々にお送りしています。  
皆様のご意見や情報をお待ちしております。(編集：J.S.)

Email: [iiseenews@kenken.go.jp](mailto:iiseenews@kenken.go.jp)

website: <http://iisee.kenken.go.jp>

ニュースレター バックナンバー : <http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

\*\*\*\*\*

平成24年1月20日

**2月21日に開催する国際シンポジウム**  
**—巨大災害からの復興を考える—**  
**の参加申込みを1月23日から開始（参加費無料）**  
**（国際社会とともに東日本大震災の復興への教訓を探ります）**

独立行政法人建築研究所では、政策研究大学院大学と共催で「国際シンポジウム—巨大災害からの復興を考える—」を2月21日(火)に開催いたします。

まず、2011年東日本大震災、2010年ハイチ地震、2008年四川地震、2004年スマトラ沖地震・津波災害等の世界的な地震津波災害に関して各国の専門家から発表を行います。

さらに、コミュニティの再生、災害弱者対応、安全な建物づくり・まちづくり、国際的な復興活動の視点からディスカッションを通して、大震災からの復興に活用が期待できる教訓を探ります。なお、基調講演は「東日本大震災からの復興」について東京大学大学院教授・日本学術会議会長の大西隆氏が行います。世界各地の震災復興と比較しながら、東日本大震災の復興にご興味のある方のご参加をお待ちしています。

開催日：平成24年2月21日（火）13:00～17:15

会 場：政策研究大学院大学（GRIPS）想海楼ホール

東京都港区六本木7-22-1 （添付地図参照：国立新美術館の隣）

参加費：無料

使用言語：英語及び日本語（同時通訳あり）

主 催：(独)建築研究所（BRI）、政策研究大学院大学（GRIPS）

参加申し込み方法：1月23日(月)より先着順(同時通訳機器150台まで)で

申し込みを受け付けます。以下の申込先に、

「ご氏名」「ご所属」「ご連絡先」をご記載の上

メールまたはFAXにてお申し込み下さい。事前のお申し込みが無い場合、当日の混雑状況によってはご参加いただけない場合がございます。

参加お申し込み・お問い合わせ先：政策研究大学院大学 岡崎研究室 Ms. Lee

FAX : 03-6439-6010

e-mail : [lee-aelim@grips.ac.jp](mailto:lee-aelim@grips.ac.jp)

(詳細はホームページでもご紹介しています。また政策研究大学院大学のホームページで、シンポジウムの様子をライブ配信予定)

[http://www.kenken.go.jp/japanese/information/information/event/international\\_symposium-2012/pamphlet-jp.pdf](http://www.kenken.go.jp/japanese/information/information/event/international_symposium-2012/pamphlet-jp.pdf)

国際シンポジウム 2012年2月21日(火)  
ー巨大災害からの復興を考えるー

プログラム

第1セッション 13:00-15:30

13:00 主催者挨拶

独立行政法人建築研究所理事 伊藤弘  
政策研究大学院大学 政策研究センター長 森地茂

13:10 基調講演 東日本大震災からの復興

東京大学大学院 教授 日本学術会議会長 大西隆

13:55 趣旨説明 近年の世界の巨大災害と復興の状況

独立行政法人国際協力機構 国際協力専門員 檜府龍雄

14:10 巨大災害と復興についての各国からの報告

ー2010年 ハイチ地震災害

ハイチ公共事業・輸送・通信省 建物評価技術室技師 フリッツ・オプラン

ー2008年 中国四川地震災害

北京師範大学 壹基金公益研究院 院長 ワン・ツェン・ヤオ

ー2004年 スマトラ沖地震・津波災害

(調整中) インドネシア公共事業省 水道環境衛生訓練センター長  
バンバン・スディアントモ

15:10 地震の概要と特徴

独立行政法人建築研究所 研究専門役 古川信雄

第2セッション 15:40-17:15

15:40 パネルディスカッション

1. 趣旨説明 復興・被害軽減に関する論点提起

独立行政法人建築研究所 国際地震工学センター長 安藤尚一

2. パネリストからの論点提起

ーコミュニティの再生

パキスタン国家災害管理庁、国連防災計画 津波・沿岸減災責任者  
ガザラ・ナイーム

ー災害弱者、貧困削減の視点から

静岡大学 教授 池田恵子

ー安全な建物づくり、まちづくり

独立行政法人建築研究所 上席研究員 福山洋

ー災害復興に関する国際的活動

国連国際復興支援プラットフォーム 情報管理官 サンジャヤ・バティア

3. ディスカッション

4. 質疑応答

17:15 閉会挨拶 政策研究大学院大学 教授 岡崎健二



- 都営大江戸線  
⇒六本木駅7 出口から徒歩5 分
- 東京メトロ日比谷線  
⇒六本木駅4A 出口から徒歩10 分
- 東京メトロ千代田線  
⇒乃木坂駅5 出口から徒歩 6 分

(国立新美術館の隣です)

<http://www.grips.ac.jp/jp/about/access.html>

## 国際ビデオ会議

### — 復興を通じた安全な住宅づくりを考える—

1. **目的**：大規模地震においては、建築物が大きな被害を蒙り、死傷者発生 of 主要な原因となることしばしばである。このため、建築・住宅に焦点を当て、被害の実態と背景、被害軽減のための技術とその普及などについて、参加各国からの報告をもとに、今後国際社会における取組に寄与するため、知見の交換、今後の取り組みへの教訓について議論を行う。実施に当たっては、より多くの国との情報共有を図るため、日本を含む地震国8ヶ国をビデオ会議システムによる繋いで実施する。

2. **主催**：(独) 建築研究所、政策研究大学院大学  
協力：JICA、UNESCO、世界銀行、日本建築学会 CIB 委員会、CIBTG75 (ノンエンジニアド住宅に関する国際的なスタディグループ)

3. **日時 (言語)**：2012年2月22日 (水) 日本時間午後4時—7時50分 (英語のみ)

#### 4. 場所：

メイン会場：世界銀行東京開発ラーニング・センター (TDL)

東京都千代田区内幸町2-2-2富国生命ビル10階

サブ会場：ビデオ会議システムによりサブ会場を繋いで実施。(JICA 本部、JICA 筑波、JICA インドネシア、バンドン工科大学、JICA フィリピン、JICA 中国、JICA バングラデッシュ、NSET オフィス (ネパール)、JICA パキスタン、JICA トルコ、ニュージーランド・ビクトリア大学 (ウエリントン))

#### 5. 内容：

- (1) 近年の巨大災害と復興についての報告 (2010年ハイチ、2008年四川、2005年カシミール地震、2004年インド洋地震・津波、2011年東日本大震災など)
- (2) 近年の地震災害についての報告 (2011年トルコ地震、2009年パダン地震)
- (3) 地震被害軽減の取り組みの事例紹介 (ネパール、フィリピン、インドネシアから)
- (4) 国際的な情報共有と被害軽減のためのアプローチ (世銀、JICA、EERI、IAEE ほか)

#### 6. 参加登録

氏名、所属、参加希望会場、連絡先 (メール・アドレス、電話番号) を記載して、メール又はFAXで下記に参加登録をお願いします。

連絡先：杉岡 Mail: [sugioka@ued.or.jp](mailto:sugioka@ued.or.jp) FAX: 03-3504-0752